

事務連絡
平成29年3月30日

都道府県消防防災主管部 }
東京消防庁・各指定都市消防本部 } 御中

消防庁救急企画室

平成28年度救急業務のあり方に関する検討会における検討結果について

平素より救急行政の推進につきまして御尽力いただき御礼申し上げます。
近年、救急出動件数が年々増加しており、平成28年中の救急出動件数は約621万件（速報値）、救急搬送人員数は約562万人（速報値）となり、ともに過去最高値を記録したところです。

このような状況の中で、消防庁では「平成28年度救急業務のあり方に関する検討会」を開催し、今般、報告書を取りまとめました。

貴職におかれましては、下記事項に留意されるとともに、各都道府県にあっては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対してこの旨周知されるようお願いいたします。

記

1. 報告事項

(1) 緊急度判定体系の概念普及コンテンツ及び緊急度判定支援ツールの作成

ア. 緊急度判定体系の概念普及コンテンツ

(ア) 紙芝居

園児を対象に、救急車の役割を伝えることを趣旨とした紙芝居を作成しました。

(イ) 短編アニメーション

小学生を対象に、救急車の使い方について考えてもらうことを趣旨とした短編アニメーションを作成しました。

(ウ) 動画（6分版・15秒版）

中学生以上の成人を対象に、緊急度判定体系の概念や重要性を伝えることを趣旨とした動画を作成しました。

(エ) 小冊子

主に高齢者を対象に、救急要請に関する事例を中心に、詳しく知りたい者に向けた参考情報も掲載した小冊子を作成しました。

(オ) ガイドブック

消防職員、医療関係者等を対象に、緊急度判定体系に関する理解を深め、積極的な普及啓発の実施を支援することを趣旨としたガイドブックを作成しました。

イ. 緊急度判定支援ツール

(ア) 救急車利用リーフレット（高齢者版）

平成 26 年度救急業務のあり方に関する検討会で作成した「救急車利用リーフレット（成人版）」を基に、高齢者の緊急性が高い症状を掲載したリーフレットを作成しました。

(イ) 救急情報シート

救急要請する可能性が高い者（救急搬送者等）を対象として、個人の持病等に応じた緊急度、医療機関及び受診手段の情報を効果的に提供できる情報シートを作成しました。

ウ. 掲載場所・配布先

各コンテンツ及びツールは、消防庁ホームページの「救急お役立ちポータルサイト」からダウンロード可能となっています。

(URL : http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_6.html)

また、救急車利用リーフレット（高齢者版）については、別紙 1 のとおり各都道府県に 4 月上旬配布予定となっています。

エ. その他

(ア) 各コンテンツ及びツールの概要、活用方法等については、別紙 2（平成 28 年度救急業務のあり方に関する検討会報告書該当部分抜粋）を参照してください。

(イ) 緊急度判定プロトコル ver. 2（家庭自己判断、電話相談、119 番通報及び救急現場）、救急受診ガイド 2017 年版及び全国版救急受診アプリ（Web・スマホ版を含む）については、現在作成中のため完成次第お知らせします。

(2) 救急事故防止に係るリーフレットの作成

ア. 救急事故防止に係るリーフレット（高齢者版）

高齢者の家の中で発生する一般負傷として、転倒、転落、窒息などの発生頻度が多い事例（表面）及びその事例に対する事故防止のポイント（裏面）をまとめたリーフレットを作成しました。

イ. 救急事故防止に係るリーフレット（乳幼児版）

乳幼児の家の中で発生する一般負傷として、ころぶ、おちる、たべるなどの発生頻度が多い事例（表面）及びその事例に対する事故防止のポイント（裏面）をまとめたリーフレットを作成しました。

ウ. 掲載場所

各リーフレットは、消防庁ホームページの「救急お役立ちポータルサイト」からダウンロード可能となっています。

(URL : http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_6.html)

エ. その他

(ア) 応急手当講習での周知、ホームページ及び広報誌での広報、救急の日等のイベントでの広報、高齢者施設、保育園、幼稚園等での周知など地域の実情に応じて活用をお願いします。

(イ) 各リーフレットは、3つのファイル形式(Illustrator・PDF・PowerPoint版)で提供しており、各消防本部の実情に応じて改変が可能です。改変に当たっては、消防庁の許可等は必要ありませんが、消防庁ホームページに掲載している留意事項を確認していただきますようお願いします。

(URL : <https://www.fdma.go.jp/neuter/info/copyright.html>)

(3) 通信指令員の救急に係る教育テキスト（追補版）の作成

JRC 蘇生ガイドライン 2015 の改訂を踏まえて、心停止の予防、口頭指導プロトコルの解説及び口頭指導の事後検証などの追記等を行い、追補版として消防庁ホームページに掲載することといたしました。

なお、通信指令員の救急に係る教育テキスト（追補版）は、消防庁ホームページに掲載し、ダウンロード可能となっています。

(URL : http://www.fdma.go.jp/neuter/about/shingi_kento/h28/kyukyuu_arikata/index.html)

(4) 応急手当 WEB 講習（eラーニング）の改訂・環境整備

ア. 応急手当 WEB 講習（eラーニング）の改訂

応急手当 WEB 講習（eラーニング）に関して、JRC 蘇生ガイドライン 2015 において改訂があった通信指令員の口頭指導、胸骨圧迫の手技（テンポ・深さ）などの主要項目について、改訂を行いました。

イ. 応急手当 WEB 講習（eラーニング）の環境整備

全国消防本部での活用を推進するため、応急手当 WEB 講習（eラーニング）の環境整備として、消防庁サーバで一括管理することとしました。

ウ. 掲載場所

消防庁ホームページに掲載し、利用可能となっています。

(URL : <http://www.fdma.go.jp/>)

2. その他

(1) 平成 28 年度救急業務のあり方に関する検討会報告書については、消防庁ホームページに掲載しております。

(URL:http://www.fdma.go.jp/neuter/about/shingi_kento/h28/kyukyu_arikata/houkoku/houkokusyo.pdf)

(2) 上記事項以外の報告事項についても、一部については別途通知を発出することとしています。

(問合せ先)

消防庁救急企画室

担当：大嶋、伊藤、谷口

TEL 03-5253-7529

救急車利用リーフレット(高齢者版)配布計画
・印刷部数:100,000枚

	都道府県配布数
北海道	4,000
青森	1,000
岩手	1,000
宮城	2,000
秋田	1,000
山形	1,000
福島	1,500
茨城	2,000
栃木	1,500
群馬	1,500
埼玉	6,000
千葉	5,000
東京	10,000
神奈川	8,000
新潟	2,000
富山	1,000
石川	1,000
福井	500
山梨	500
長野	1,500
岐阜	1,500
静岡	3,000
愛知	6,000
三重	1,000
滋賀	1,000
京都	2,000
大阪	7,000
兵庫	4,000
奈良	1,000
和歌山	1,000
鳥取	500
島根	500
岡山	1,500
広島	2,000
山口	1,000
徳島	1,000
香川	1,000
愛媛	1,000
高知	500
福岡	4,000
佐賀	1,000
長崎	1,000
熊本	1,500
大分	1,000
宮崎	1,000
鹿児島	1,000
沖縄	1,000

ア. 紙芝居

紙芝居は、保育園児・幼稚園児を対象として、「救急車はどんなときに使う車か?」「どんな仕事をする車か?」を伝えることを趣旨として作成した。なお、印刷用のデータ及び音声付きの上映用のデータ（電子紙芝居）の2種類を作成した。概要は以下のとおり。

(あらすじ)

突然、目の前でお母さんが苦しみ倒れてしまい、慌てるウサギの子供。隣に住むキリンさんの119番通報で駆けつけた救急車のQ助の活躍のお陰で、お母さんはすぐにクマ先生に診てもらえることができた。救急車の不適正な利用例も示しながら、救急車が「命を助ける大切な乗り物」というメッセージを伝える。(全11枚)

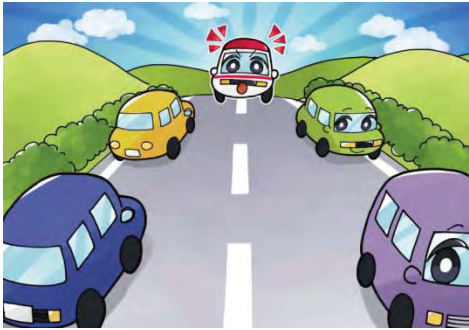
図表 2-11 紙芝居



(3枚目) ウサギのお母さんが倒れる



(4枚目) キリンさんが通報



(7枚目) Q助が急いで病院へ向かう



(10枚目) 不適正な利用例

(想定される使い方) ※P. 63の「3. 効果的な情報発信方法」も参照

保育士及び幼稚園教諭のほか、避難訓練又は救命講習で訪問した消防職員等が活用することが想定される。印刷又はスクリーンへ投影し紙芝居のように読み聞かせること及び音声付きの電子紙芝居を上映することが想定される。

イ. 短編アニメーション

短編アニメーションは、小学生を対象として、救急車の使い方について考えてもらうことを趣旨として作成した。概要は以下のとおり。

(あらすじ)

お母さんが交通事故で大怪我をし、病院に救急車で搬送された。そこで、主人公じゅんくんは、風邪を引いただけの若者が、お金がないからという理由で同じように救急車で搬送されてきたのを見た。

救急車の使い方に疑問を持ったところ、ちょうど学校の行事で消防署に行く機会があった。そこでじゅんくんは救急隊員に質問した。

図表 2-12 短編アニメーション



お母さんが交通事故に遭い大怪我をする



救急車で救急搬送される



風邪を引いた若者が救急車を利用



じゅんくんが救急隊員に質問する

(想定される使い方) ※P. 63 の「3. 効果的な情報発信方法」も参照

小学校での出前授業で上映すること又は小児科の外来のデジタルサイネージ（電子看板）で流してもらうことが想定される。

※紙芝居と短編アニメーションに共通すること

園児～小学生を対象に「救急車」のことを考えてもらうために「クイズ（回答例付き）」を作成している。なお、正解・不正解が目的ではなく、あくまで「考えてもらうこと」を目的としている。クイズを利用するか、また、どのクイズを利用するかは聴き手の年齢及び理解度に応じて選択することができる。クイズについても消防庁 HP に掲載する予定である。

ウ. 動画（6分版・15秒版）

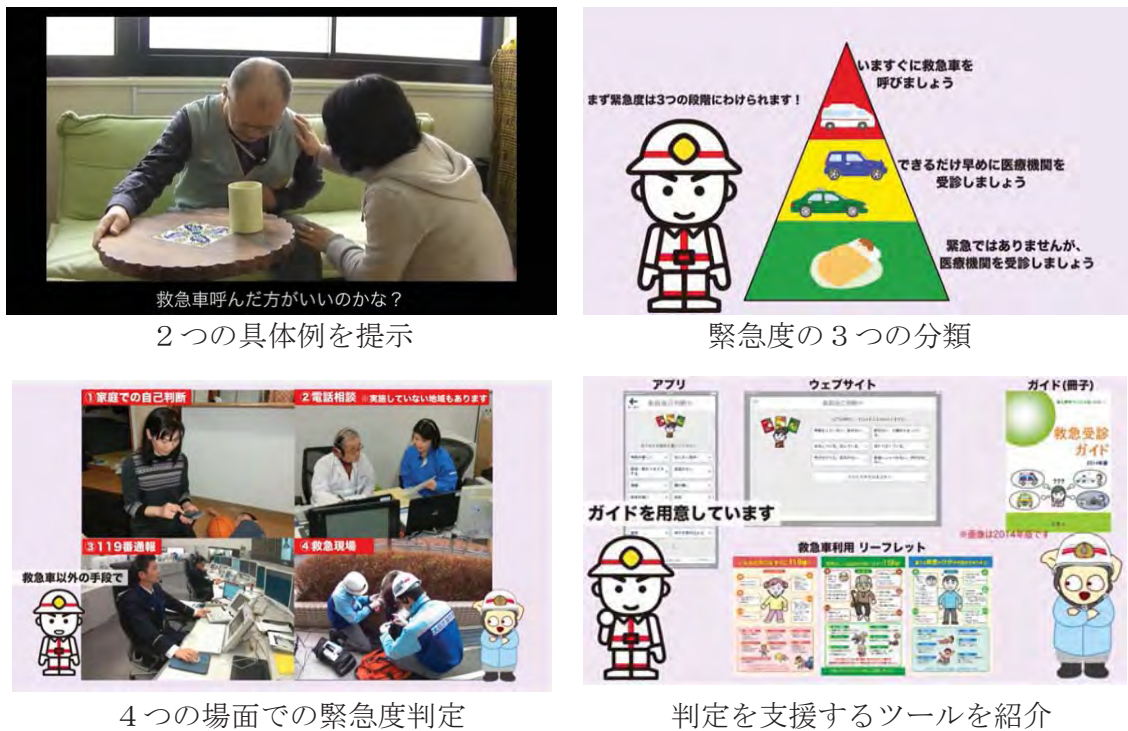
動画（6分版・15秒版）は、中学生以上の成人を対象に、緊急度判定体系の概念及び重要性を伝えることを趣旨として作成した。なお、救急車の出動シーン等の映像は、大阪市消防局の全面協力の下に作成した。概要は以下のとおり。

【動画（6分版）】

（あらすじ）

ボジョレーと消太の2人が、一般の住民が緊急性の判断に悩む具体的なケースを踏まえ、緊急性を判断することの難しさと、だからこそ緊急度判定体系ができたことを伝える。さらに、緊急度の分類や緊急度判定プロトコルの成立ちを分かりやすく説明するとともに、緊急度判定支援ツールの紹介も行い、概念の普及と住民による緊急度判定を促している。

図表 2-13 動画（6分版）



【動画（15秒版）】

(あらすじ)

緊急性の高い症状から低い症状まで、色々な訴えで119番通報する人たちがいる。その症状は、本当に緊急なのか、緊急度について考えてもらうことを伝えている。

図表 2-14 動画（15秒版）



指令室の電話が鳴り響く



色々な緊急性の症状で救急要請



色々な緊急性の症状で救急要請



緊急度を問いかけ、考えさせる

(想定される使い方) ※P.63の「3.効果的な情報発信方法」も参照

いずれの動画に関しても、応急手当講習会や出前講座、市民向け講座等での活用が想定される。また、ウェブサイト等（関係団体のホームページ、ブログ、ツイッター等）への掲載のほか、医療機関、公共交通機関、商業施設等のデジタルサイネージ（電子看板）で流してもらうことも想定される。

エ. 小冊子

比較的「読み物」に慣れている者（主に高齢者）を対象に、救急要請に関する事例を中心に、詳しく知りたい者に向けた参考情報も掲載した小冊子を作成した。概要は以下のとおり。

図表 2-15 小冊子

(目次)

第1章 はじめに
 第2章 実際にあった救急要請の事例
 (緊急性の高い事例、低い事例、不適正な救急要請の事例：計12例)
 参考情報1：緊急度判定体系とは？
 参考情報2：詳しく知りたい方のために

(表紙)



緊急性の高い事例（一例）

<仕事中の“胸痛”で同僚の方が救急要請>

61歳の男性で、同僚の方からの通報でした。

仕事中、胸痛を発症したため、救急要請したとのこと。現場に到着し、傷病者を観察すると、顔面蒼白で冷や汗を認め、持続する胸痛を訴えていました。脈拍が弱く、最高血圧も80台と低いため、観察結果から心筋梗塞を疑い、循環器の病気に対応ができる総合病院へ搬送しました。

数か月後、消防署に来署され、大変元気な姿を見せていただきましたが、話を聞くと、心筋梗塞と診断され手術を受け入院したとのことでした。

緊急性の低い事例（一例）

<筋肉痛のための市販薬で強くかぶれたので救急要請>

40歳代男性が自宅前の道路上に立っていて、自力歩行で救急車に乗車しました。状況を聞くと「筋肉痛のため数日前に市販の痛み止めの塗り薬（液）を塗ったところ、強くかぶれた。痛みは治まったが心配だ。皮膚科に行こうとも思ったが、救急車を要請した。」という説明を受けました。薬を塗ったふくらはぎは乾燥状態で熱感はありません。ご本人も痛みはなく、歩行にも影響はないと言われました。

(想定される使い方) ※P. 63の「3. 効果的な情報発信方法」も参照

消防職員や医療関係者のほか、民生委員、自治会・老人会役員、ケアマネジャー等から、高齢者に配布してもらうことが想定される。

オ. ガイドブック

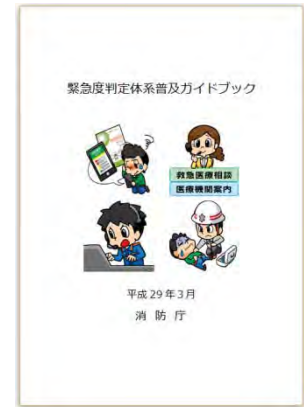
消防職員、医療関係者などの「住民に説明する立場」の者を対象に、緊急度判定体系に関する理解を深め、積極的な普及啓発の実施を支援することを趣旨として作成した。概要は以下のとおり。

図表 2-16 ガイドブック

(目次)

第1章	はじめに
第2章	救急車利用の現状（データ）
第3章	救急車の役割
第4章	緊急度判定体系とは？
第5章	緊急度判定体系普及の必要性
第6章	緊急度判定体系の概念の普及コンテンツの紹介
第7章	緊急度判定プロトコルの紹介
第8章	緊急度判定支援ツールの紹介
第9章	情報発信手段について
第10章	Q&A
第11章	付録（住民への説明ツール）

(表紙)



また、下図のような住民への説明用のスライドも作成した。なお、標準的な説明用の文章をノート部分に入れてあるため、誰でもそれを読めば十分に伝えられるようになっている。

図表 2-17 住民への説明用のスライド



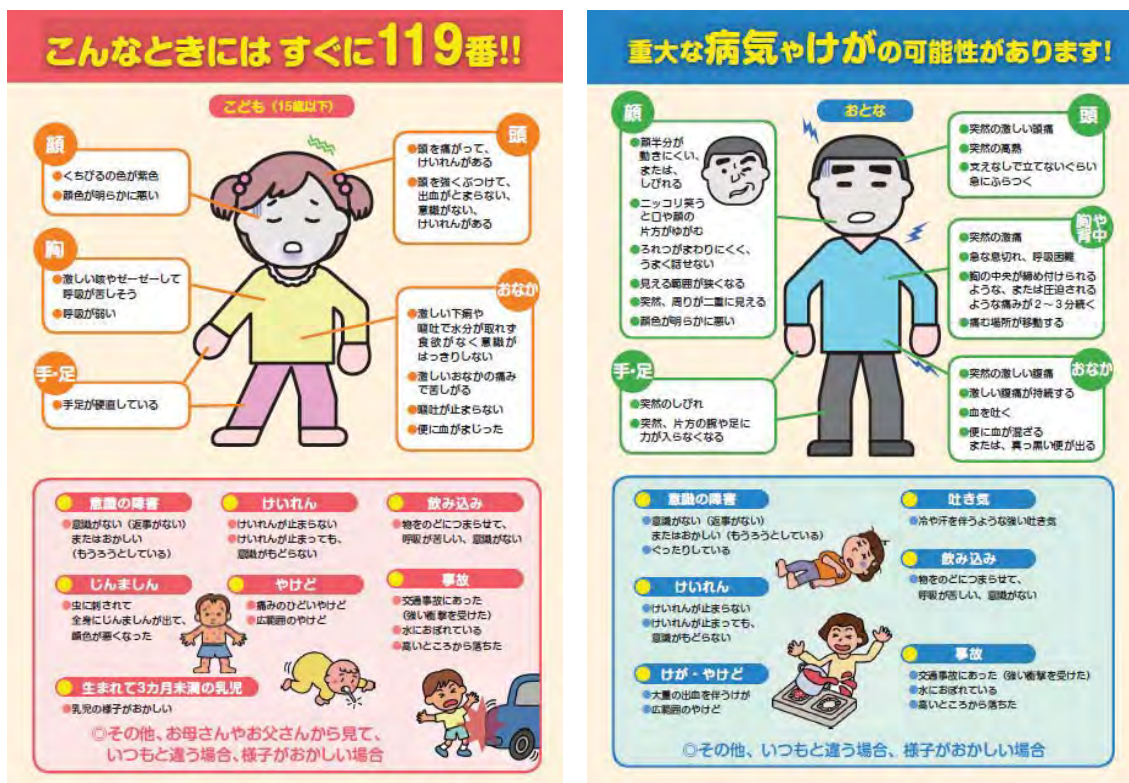
(2) 高齢者版救急車利用リーフレット及び救急情報シートの作成

① 高齢者版救急車利用リーフレットの作成

ア. 経緯

平成 26 年度に作成した「救急車利用リーフレット」は、多くの消防本部で活用されている。一方、当該リーフレットは下記のとおり「子供版」又は「成人版」であることから、救急車の利用者の多くが高齢者である現状を踏まえると、新たに「高齢者版」を作成することが必要と考えられる。

図表 2-23 救急車利用リーフレット（子供版・成人版）




イ. 検討内容

「救急車利用リーフレット（成人版）」を基に、高齢者の場合に緊急性が高い症状を検討した。

また、一般の高齢者に対するアンケート調査を行い、見やすさ・使いやすさ等の観点から意見を聴取し、リーフレットの構成等へ反映した。

図表 2-24 救急車利用リーフレット（高齢者版）

突然のこんな症状の時にはすぐ119番!!



高齢者

顔

- 顔半分が動きにくい、しびれる
- 笑うと口や顔の片方がゆがむ
- ろれつがまわりにくい
- 見える範囲が狭くなる
- 周りが二重に見える

頭

- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立ってられない

胸や背中

- 突然の激痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛む場所が移動する

手・足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

けいれん

- けいれんが止まらない

飲み込み

- 物をのどにつまらせた

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

事故

- 交通事故や転落、転倒で強い衝撃を受けた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合◎
高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので注意しましょう。

※迷ったら「かかりつけ医」に相談しましょう！

(想定される使い方)

高齢者自身のほか、高齢者の家族、福祉施設等の職員等が利用することが想定される。

(想定される使い方)

医療機関が、患者ごとに必要事項を記入し、患者へ渡す形での活用を想定しており、消防庁のHPからExcelファイルでダウンロードが可能となっている。

また、医療機関ごとに、適宜使いやすい形に修正・加工した上での活用を想定しており、前述の救急車利用リーフレットを表に、救急情報シートを裏に印刷して配布することなどが想定される。

図表 2-26 救急情報シート (Excel ファイル)

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following content:

- Header: さんへ _____ より
- Section 1: ●こんな症状が出たら、 _____
- Section 2: 医療機関記載欄 (Large empty box)
- Section 3: ●こんな症状が出たら、 _____
- Section 4: 医療機関記載欄 (Large empty box)
- Section 5: ●各種連絡先
- Table for Section 5:

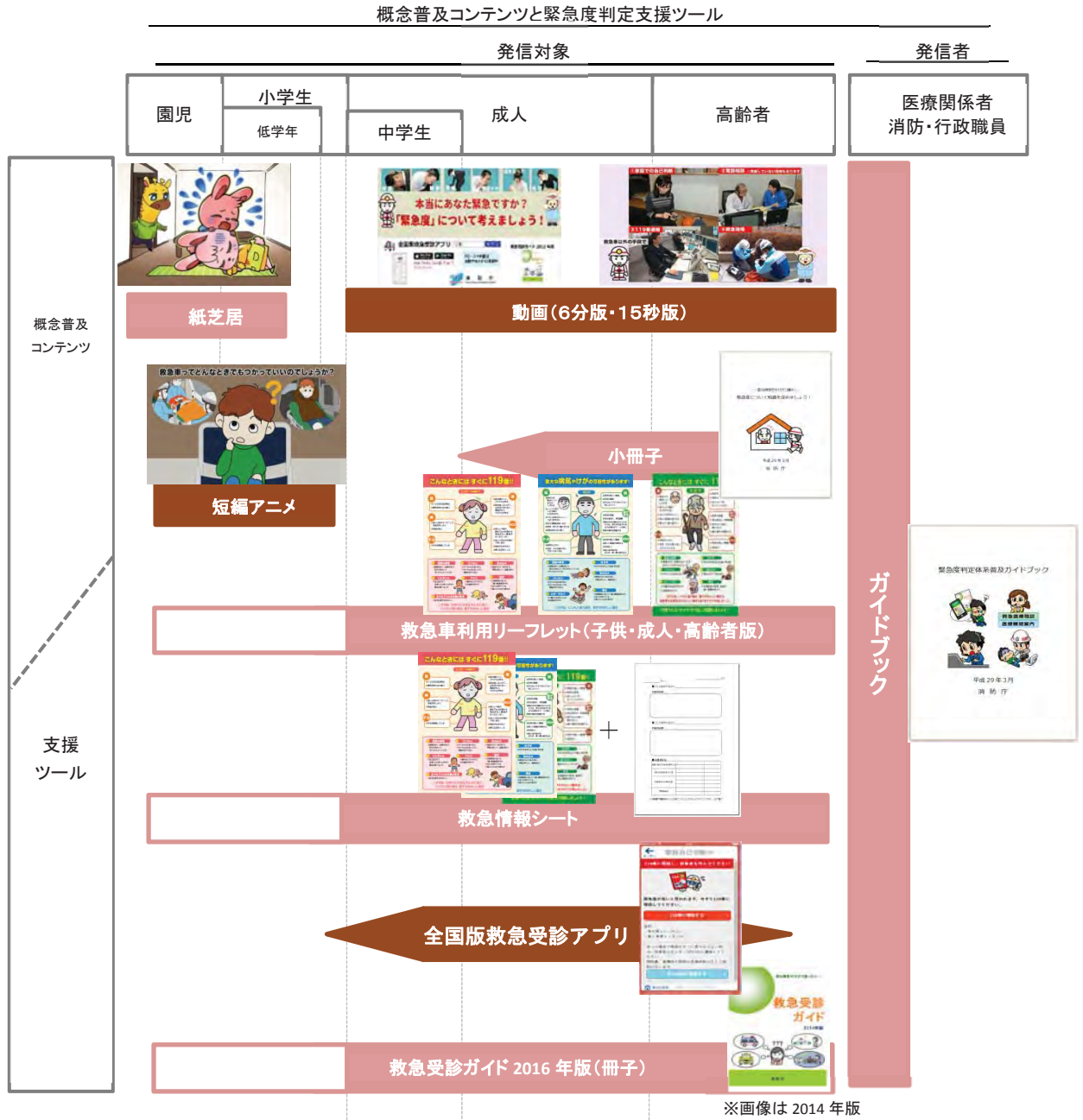
夜間・休日に受診が必要なとき		
受診が必要が迷ったとき		
救急車以外の受診手段		
緊急連絡先		
- Text: Webやスマホで簡単に症状の緊急性の判断を支援してくれるツールもあります
- Text: 全国版救急受診アプリ (Web、スマホ版)、救急受診ガイド2016年版
- QR code
- Text: ※冷蔵庫や電話機の上など目につくところに貼っておいてください。お大事に

医療機関や患者の志向に合わせて多様な形で活用して頂き、患者が緊急時に適切な判断を行い、必要時には迷わず 119 番通報ができる環境の積極的な推進を図りたい。

(2) 情報発信対象の整理

これまでに示した各コンテンツ・ツールの情報発信対象について、以下のとおり整理した。

図表 2-33 情報発信対象の整理



(3) 概念普及コンテンツの使用法

概念普及コンテンツの使用法として、各コンテンツの特性を踏まえた普及啓発の例を以下に示す。

図表 2-34 概念普及コンテンツの使用法

	何から(手段)	誰に	何を使って(一例)
▶ 不特定多数の人に向けた普及啓発	ウェブサイト等 関係団体HP	インターネット層 (若年層・無関心層等)	動画(3分、15秒版)
	ブログ・動画サイト・ツイッター		
	無料アプリゲームへの広告		
▶ 特定の人に向けた普及啓発	デジタルサイネージ(電子看板) 病院の待合室等	患者・家族	動画(15秒版)
	公共交通機関	通勤者層	
	商業施設	ファミリー層	
	誰から	誰に	何を使って(一例)
幼稚園・学校職員	園児・生徒	紙芝居 短編アニメーション	
消防職員	応急手当講習会、出前授業等の参加者 市民向け講座の参加者		
医療関係者		動画(3分、15秒版)	
民生委員 自治区・老人会 ケアマネ・訪問看護師	高齢者世帯、一人暮らしの高齢者	小冊子	

(4) 緊急度判定支援ツールの配布方法

緊急度判定支援ツールの各々の特性を踏まえた配布方法の例を以下に示す。

図表 2-35 緊急度判定支援ツールの配布方法の例

誰から	誰に	何を使って	どうやって
行政職員(保健師等)	母親	リーフレット(子ども版)	乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)の訪問時や妊婦教室時等に手渡し
子育て支援センター			健診時等に手渡し ※
医療関係者	患者	救急情報シート	センター訪問時に職員から手渡し
民生委員	高齢者世帯、一人暮らしの高齢者	救急受診ガイド(冊子)リーフレット(高齢者版)	診察時、会計時、退院時等に手渡し ※
自治区・老人会			訪問時、集会時等に手渡し ※
ケアマネ・訪問看護師	介護職	救急受診ガイド + リーフレット(子ども・成人・高齢者版)	ケアプラン作成時や訪問看護後等に手渡し
消防職員	救命講習受講者 出前授業等の参加者		講習会時等に手渡し ※
学校の教職員	生徒(子ども)の親	救急受診アプリ	講習会時や保護者の後、PTA研修会等時に手渡し ※
マンション管理会社	マンション住民		※関心のある項目だけを選択して持ち帰ってもらうことも可能とする 全戸配布又はマンション内掲示板に掲示
行政職員	一般住民		市報等へ同封する
行政職員 消防職員	一般住民		住民へ配布する広報紙やチラシにQRコードを掲載し、ダウンロードしてもらう

(5) 消防本部の各種行事での普及啓発の機会

下記に消防本部の普及啓発の機会となる主なイベントをまとめた。このような機会を有効に活用し、概念普及コンテンツによる緊急度判定体系の概念の普及及び緊急度判定支援ツールによる住民自身の緊急度判定を推進することが望ましい。

図表 2-36 各種行事での普及啓発の機会

